



特集

ひょうごを照らす人
～若い力を育もう みんなで創る
ひょうごの未来～

- ① 神戸市看護大学 船越明子教授
- ② 県立千種高等学校 南光開斗さん

ひょうご青少年憲章

- 1 自分を大切にし、自らを律し、行いに責任をもって生きていこう
- 2 ふれあいを深め、正義感をもち、社会を担う一人として生きていこう
- 3 人の痛みや喜びを感じあえる心をもって生きていこう
- 4 多様な人々の存在を受け入れ、ともに支えあって生きていこう
- 5 自然を愛し、生命を尊び、みえない世界にも襟を正して生きていこう
- 6 先人に学び、明日に夢をえがき、勇気をもって未来を拓いていこう

編集・発行



公益財団法人
兵庫県青少年本部
Hyogo Youth Services Administration

〒650-0011 神戸市中央区下山手通 4-16-3 兵庫県民会館 8階
TEL.078-891-7410 FAX.078-891-7418
<https://www.seishonen.or.jp/>



阪神南青少年本部
06-6481-4634

阪神北青少年本部
0797-83-3138

東播磨青少年本部
079-421-9105

北播磨青少年本部
0795-42-9352

中播磨青少年本部
079-281-9198

西播磨青少年本部
0791-58-2131

但馬青少年本部
0796-26-3648

丹波青少年本部
0795-72-0500

淡路青少年本部
0799-26-2048

神戸事務所
078-647-9091

特集 ひょうごを照らす人

この人に注目

～若い力を育もう みんなで創るひょうごの未来～

新型コロナウイルス感染症の流行は、外出の機会や人と人とのふれあいの減少など、私たちの生活に大きな影響を与えています。県内でも感染者の数は抑えられてきましたが、完全に収束するにはまだまだ時間がかかる見通しです。

子どもたちは、オンラインでの授業、学校行事の中止や延期など制限のある生活が続きました。このような時代の中でも、様々な課題に前向きに立ち向かっている人がいます。今回は、「ひきこもり」のご本人やご家族へ支援をされている専門家の方と、コロナ禍の学校生活で自らイベントを企画・実施した学生さんにインタビューを行いました！

神戸市看護大学 船越明子教授

ひきこもりとはどういった状態の人のことですか？

厚生労働省は、ひきこもりを「様々な要因の結果として社会的参加（就学、就労、家庭外での交遊など）を回避し、原則的には6ヵ月以上にわたって概ね家庭にとどまり続けている状態を指す現象概念」と定義しています。特定の病気や障害ではなく、ひきこもっている状態を表しています。私は、ひきこもりとは、社会とのつながりを失った社会的な孤立状態にある人のことと考えています。

団塊ジュニアの就職時期である1990～2000年のころからガラッと社会が変わりました。就職氷河期もあり、高度経済成長期で確立してきた社会の仕組みが追いつかなくなったと思います。人の価値観、関わり方も変わりましたよね。労働、障害、教育、子育て、保健医療、福祉など、縦割りの社会保障制度の狭間に落ちてしまい、ケアされなくなった人たちが孤立してしまっています。ひきこもりとは、居場所がなく、社会的に孤立している人たちのことです。行政の保護や福祉だけではなく、地域やみんなで包摂的に支えていくことが大切です。



Profile
神戸市看護大学 精神看護学専門
船越明子教授

ひきこもりになるきっかけはあるのでしょうか？

きっかけはきっかけにすぎないんです。ひきこもることで身を守っている。なにか脅威があるから自分を守るためにひきこもりという対処をとることは誰にでもあることです。私たちは、「つらいことがあったから一週間一歩も外にでなかった。」と聞いても「ひきこもり」とは思わないですね。ただ、1ヶ月、1年間と長期化するとやっぱり周りもおかしいな、困ったなと感じ始めます。心理的な危機に遭遇した時、適切な時に適切な支援や助けがないと、ひきこもりが長期化し、社会的な孤立状態に陥ってしまう可能性があります。

安心してひきこもれる状況をつくるのが大事とよく聞きますがどうなのでしょう。

安心してひきこもれる環境は大事ですが、一生ひきこもれる環境を作ることがいいという訳ではありません。安心できる場所があるから外に出られるのです。ですから、家が安心できる場所であることは大事です。そして、同じように社会にも逃げ場や安心できる場所が必要です。

ひきこもり本人が求めていることはなんなのでしょう？

認められたい、なにかを頑張って達成したいという人としての欲求は誰にでもあるので、社会の中で認められる、自分らしくいられる場があることが大切です。

早く経済的に自立したい、自立してほしいという声をよく聞きます。親や本人は焦ってしまいますが、経済的な自立は後からついてくるものと考えた方が良いでしょう。

ひきこもりとなった子どもへはどのように向き合ったらいいですか？

学齢期にひきこもると不登校という状況になります。その時は、学校以外で活躍できる場を見つけることが大事です。子どもが学校に行かないとなると大人は重大事件のように感じますが、100歳まで生きる長い人生の中で考えると数年に過ぎません。

たかが学校、されど学校です。学校にも行かないのに、こんなことさせられないという考えは子どもの成長を妨げてしまいますね。学校以外で活躍できる場をつくり、達成感を感じると、子どもは「学校くらい行ってやる」となります。学校に行くハードルが下がるんですね。

一方で、学校に行かないから勉強ができない、勉強ができないから学校に行かないという悪循環に陥ってしまうことは問題です。学校に行かなくとも勉強ができるように、いかなる状況でも教育が受けられる機会を大人が責任をもって子どもに提供することが大切です。

親や周りの大人へのメッセージ

どこでもいいので相談してください。

ひきこもりについての基本的な知識とともに、困ったときには相談する場があること、誰かに相談していいんだということをみんなが知っておくことが大事です。なんでも自分でやらなきゃと思うとこじれてしまいます。相談していい、頼っていいとだれもが思える地域、社会であることが大切です。

イベントのお知らせ

“ひきこもり VOICE STATION”では、ひきこもりへの理解を深め、誰もが生きやすい社会・地域づくりについて考えるイベントや相談会を実施しています。相談窓口一覧もありますので、ぜひ一度ご覧ください！



こくう映画祭 実行委員長 県立千種高等学校 南光開斗さん



県立千種高等学校
HPはこちら



こくう映画祭はどんな映画祭ですか？

“優しさ”をテーマとした野外映画祭です。自分たち千種高校の生徒だけではなく、地域の人や企業の方々にも協力してもらいながら開催しました。

選んだ2つの映画には、伝えたいメッセージを込めています。1つめ『ソウルフルワールド』は、主人公が生きてる目的を考えていくストーリーを通して、何気ない日常の中に“きらめき”、素晴らしいことがあると伝えます。2つめ『ワンダー君は太陽』は、複数人の視点から繰り広げられるストーリーの中で、それぞれの考えや抱えている課題、様々な形の“優しさ”を描いています。どちらも、こくう映画祭のテーマである“優しさ”や“リラックスすること”を感じてもらえると思い選びました。

開催しようと思った理由はなんですか？

入学当初からコロナ禍が始まり、学校という集団生活を強いられる場では、たくさんのルールが決まりました。不満を感じるルールを守らない生徒は、先生に注意されると余計に不満が溜まり、ギスギスした雰囲気になる。学校だけでなく社会の空気が重くなり、助け合うべきときに疑い、攻撃し合っているように感じました。そんな中で、リラックスでき、気を許せる場をつくりたいと思ったことがきっかけです。

高1のころから、もともと地域に密着した活動をしたいと思っていました。千種町は豊かな自然に恵まれており、さらに幼稚園児から高校生まで、地域が子どもを育てていくという思いが強く、いつもあたたかく見守ってくれている。そんな千種町の魅力を感じてもらえるイベントができないかという思いから、子どもから大人、性別問わずだれでも楽しめる映画祭を屋外で実施しようと企画しました。

苦労したことは？

機材の設置等に協力いただく外部の方との調整が難しかったです。学校が終わる時間と企業の方との就業時間が合わず、打ち合わせの時間を調整しなければならなかったり、まだ社会にでていない自分たちは、社会の常識や礼儀をわかっていなかったりと苦労することもありました。

また、映画祭当日、天候が悪く小雨が降ってきたので急遽機材等にビニールをかける必要がでてきたり、思っていたよりも日照時間が長く開始直後はスクリーンが見づらくなってしまったりなど、予想していなかったトラブルもたくさん起こりました。

学んだこと、得たことはなんですか？

この映画祭を通して、たくさんの地域の方と関わり、改めて千種町の魅力である“人のあたたかさ”を感じました。最初は本当にできるのだろうかと思っていましたが、地域の方の協力や応援があったからこそ実施できたと感じています。

また、企業の方にも、無償提供という形で協力していただくなど、社会の中にも“柔らかさ”“あたたかさ”があるということを実感しました。

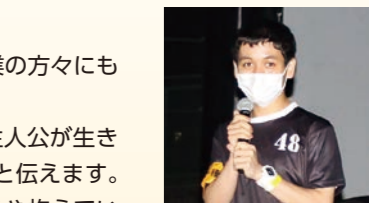
人のつながりは偉大です。人に働きかけ、協力を得ることで、無理だと思っていたことが実現していく。この映画祭を通じていろいろな人と関わり、協力いただいたことで、新たな人とのつながりを得ることができたことが一番大きな成果だったと思います。

最後に伝えたいことはありますか？

能力主義が重視される中、多くの学校では、テストの点数や大学合格など、達成することにばかり焦点があたっているように感じます。もちろんこれらも大切なことですが、その中で生きづらさを感じている生徒は多いと思います。

千種高校は小さな学校ですが、先生たちは学業だけでなく、生徒個人にとって高校3年間が価値のあるものになることを重視し、真摯にサポートしてくれます。進学をめざす人も、それ以外の何かを頑張りたい人も、生きづらい人もみんなが自分らしくいられます。

社会全体が、同じように個人の生きやすさを重視する形になってほしいと思います。



Profile
県立千種高等学校
南光開斗さん
▲映画祭を終えて実行委員長あいさつ



▲生徒会執行部のみなさん



▲『ワンダー君は太陽』上映時の様子



▲こくう映画祭2022ポスター

自然災害で被災した住まいの再建に備えて
兵庫県住宅再建共済制度
(フェニックス共済)

<p>住宅再建共済</p> <p>年額5,000円で 再建・補修等に 最大600万円給付</p> <p>半壊以上(損害割合20%以上)</p>	<p>準半壊特約</p> <p>年額500円で 補修等に 25万円給付</p> <p>損害割合10%以上20%未満</p>	<p>家財再建共済</p> <p>単独加入 年額1,500円で 住宅とセット 加入の場合 年額1,000円で 購入・補修時に 最大50万円給付</p> <p>床上浸水・半壊以上</p>
---	---	--

地震、台風などあらゆる自然災害による被害が対象です

お問い合わせ・お申し込みは、ホームページ または コールセンターまで！

公益財団法人兵庫県住宅再建共済基金 **フェニックス共済** 検索

コールセンター (平日9:00～17:00)
078-362-9400 Fax 078-362-4082

本部事業報告

人とつながるオフラインキャンプ2022

自然や仲間とふれあいながら、日常生活でのインターネットやゲームの利用を振り返り、上手な付き合い方を考える「人とつながるオフラインキャンプ2022」を兵庫県立いしま自然体験センターで実施しました。

参加者は野外炊事やカヌー、キャンプファイヤー等の自然体験活動を通じて、人とのつながりやリアルな充実を感じるとともに、自身のネット利用等の日常生活を振り返り、今後の目標を立てることで行動変容を促すきっかけとしました。

また、青少年が安全に安心してインターネットを利用できるよう、青少年による主体的なインターネット利用のルールづくりについて、大人と子どもがともに考え、学び、取組の輪を広げる全県大会「スマホサミット in ひょうご2022」にキャンプ参加者が登壇し、キャンプの結果を報告しました。



第50回兵庫・沖縄秋期友愛キャンプ

兵庫県・沖縄県友愛運動の一環として、昭和48年から実施されている友愛キャンプは、今年で50周年を迎え、11月3日～6日に3年ぶりの3泊4日の日程で沖縄にて開催しました。実施にあたっては一般財団法人敬愛まちづくり財団からご寄付いただいております。

平和学習では壕や資料館を訪れたり、島守の塔やのじぎくの塔に献花したりしました。また、5年に1度の世界のウチナンチュ大会への参加、慶良間でのダイビングなどさまざまな体験をしました。コロナ禍にも負けず、兵庫と沖縄の青年が共に学んで語り合うことにより、友愛の絆を深めることができました。



ひょうご子ども・若者応援団～マッチング＜資源の橋渡し＞事業～

企業・社会奉仕団体等から寄附された多様な資源を、青少年育成活動に取り組む青少年団体・グループ（当本部へ登録が必要）に提供（年4回：四半期毎に実施）することにより、地域ぐるみでの青少年の健全育成を支援しています。

今年度は、12企業等から寄附された資源（プリザーブドフラワー、飲料、菓子、虫よけ製品、文具など）を、157団体・グループへ提供しました。（10月末現在）



国際交流体験キャンプ『世界まると体験事業』

多国籍の青年たちが、令和4年9月17～18日に自然豊かないしま自然体験センターで国際交流体験キャンプを実施しました。



台風の接近により期間を1泊2日に短縮しましたが、参加した青年たちは、海洋スポーツや世界の料理実習、国際理解ディスカッションなど凝縮

した2日間の共同生活を過ごしたことで、国籍を超えた友好関係を築くことができました。

本事業は、公益信託兵庫県婦人会館ユネスコ基金の助成を受けて実施しています。



少年の主張兵庫県大会～中学生のメッセージ2022～

中学生たちが日常生活等の体験を通し、考えていることや将来の夢などを発表する「少年の主張兵庫県大会」を令和4年9月24日にけんみんホールで開催しました。

応募者10,378人の中から各地区で選抜された10人の中学生が、それぞれの主張を力強く発表しました。

最優秀賞には「見た目問題」を発表した新温泉町立夢が丘中学校3年の松井瞬さんが選ばれました。「人を容姿で判断せず、多様性が尊重される社会になることを願うとともに、その実現を支える一人になりたい」と主張しました。



最優秀賞：新温泉町立夢が丘中学校3年 松井瞬さん
優秀賞：加古川市立神吉中学校3年 大搦千聖さん
（発表順）赤穂市立赤穂西中学校3年 丁畑奏音さん
審査員特別賞：西宮市立今津中学校2年 砂川省吾さん

「未来づくり応援事業」全県セミナー2022

兵庫県では、地域の青少年育成活動の担い手を対象に、セミナーや地域の特性を生かして各地域で活動する団体の連携促進により、青少年を支える人材の確保・育成を図る「未来づくり応援事業」を令和4年度より実施しています。

今回は、様々な課題を抱える子どもたちの居場所について、札幌市の先進事例として、松田考氏の講演「社会全体で子どもを育むための居場所づくり」と、パネルディスカッション「子どもの未来のために、私たちにできること」を考えるセミナーを12月20日に兵庫県民会館で開催しました。



兵庫県青少年本部表彰

兵庫県青少年本部表彰は、地域で優れた活動を地道に展開している青少年や指導者などを表彰し、その活動をさらに奨励するものです。令和4年度の実績は、青少年の部から9人・1団体、指導者の部から10人に決定し、12月20日に兵庫県民会館で表彰式を行いました。



地方青少年本部だより

神戸

小中学生のための理科教室

令和4年8月23日、神戸市立工業高等専門学校との協力で、「見る、体験する、考える」をテーマに科学実験体験教室を開催しました。塩水で走る燃料電池カーを作成し、ものづくりや科学の楽しさを学びました。



阪神南

親子ふれあい いきいき わくわく野球観戦

令和4年8月30日、阪神甲子園球場において、3年ぶりに実施しました。試合開始直前の大雨で45分遅れでスタートしましたが、雨の中、最後まで阪神タイガースの勝利を信じ元気いっぱいに応援しました。



阪神北

阪神北文化フェスタ

令和4年11月13日、宝塚市立中央公民会において青少年による文化活動の発表として阪神北文化フェスタを開催しました。ダンスや合唱等、5団体が舞台上で日頃の練習成果を発揮しました。



東播磨

少年の主張東播磨大会

令和4年8月7日、加古川総合庁舎において、書類選考を通過した9名の中学生が、地域での思いやり、未来への提言等、多様なテーマで自らの考えを発表しました。発表者の熱意あふれる大会となりました。



北播磨

遊ぼう！ぼうけんの森

令和4年10月2日、県立やしろの森公園で、大学生の企画運営のもと小学生96名が豊かな里山の自然の中で様々なミッションをこなし、楽しみながら自然の営みやチームワークの大切さを学びました。



中播磨

小学生バレーボール教室

令和4年8月4日、地元プロバレーボールチーム・ヴィクトリーナ姫路の選手による、バレーボール教室を開催しました。わかりやすい指導を受け、迫力あるスパイクの実演に圧倒され、子どもたちは大きな目標を得た様子でした。



西播磨

親子漁船乗船&地引き網体験

令和4年8月27日、15組の親子がたつの市の室津漁港で漁船に乗船した後、御津で地引き網を体験しました。組合長さんからお話を聞いていた魚やタコが網にかかっている様子から大歓声が上がりました。



丹波

たんば子ども塾

夏休み期間中に、地域の6つの高校の生徒が先生になり、小学校4～6年生の児童が、工作、楽器演奏、自然観察、野菜講座、科学実験、パソコンなどの活動を体験する「たんば子ども塾」を開催しました。



淡路

第38回淡路青少年の主張大会

令和4年8月27日、洲本市市民交流センターにおいて、島内の小中学校から応募のあった536点の中から事前選考を通過した入選者が、将来の夢や社会問題への提言など、日頃の熱い思いを発表しました。



青少年施設だより

県立こどもの館

〒671-2233
兵庫県姫路市太市中915-49
TEL. 079-267-1153



コロナ禍からの再出発

当館は、今年度、コロナ禍からの再出発を図っています。

5月の「こどもフェスティバル」の後、「親子遊戯室」を再開し、6月には敷地内の竹を職員総出で切



出し、館内の広場に据え付けました。竹には七夕の飾りつけをし、秋には秋祭りの飾りつけを施し、新たな館のシンボルとなっています。

また、6月に昔の玩具を楽しむ「あそびのひろば」を整備、10月には多目的ホールを家族で運動する「家族de運動会」に模様替えし、案内所には自然を活用した遊びの紹介コーナーを設けました。

12月、館内はクリスマスに模様替えし、来館者の目を楽しませています。

県立神出学園

〒651-2304
兵庫県神戸市西区神出町小束野30
TEL. 078-965-1122



第28回「学園祭」と「宿泊体験旅行」

10月11日(火)、12日(水)の1泊2日で姫路(家島)・神戸方面へ宿泊体験旅行に出かけました。1日目は家島でカヌーやカヤックを体験し大自然の雄大さや美しさに触れ、2日目は神戸動物王国や水族館「atoa」で、普段は見ることのできない動物とふれあいました。2年ぶりの宿泊旅行となり、学園生からも「楽しかった」という声がたくさん聞かれました。



11月2日(水)の第28回神出学園祭は、学園生によるカラオケやバンド演奏等のステージ発表のほか、射的やフランクフルトなどの模擬店が賑わいを見せました。

また、保護者による地元特産品の販売やバザーも行われ、明るい笑顔と活気あふれる学園祭となりました。

県立山の学校

〒671-2515
兵庫県宍粟市山崎町五十波430-2
TEL. 0790-62-8088



創立30周年を迎えて

11月5日(土) 姫路市文化コンベンションセンター「アクリエひめじ」にて創立30周年を祝う式典行事を挙行了しました。片山副知事、水田県議会副議長をはじめ、山の学校にゆかり



のある方々に多数参加していただきました。式典では創立30周年のお祝いや今後の活躍に向けての激励などお言葉を多数頂きました。その後、在校生による30年間の軌跡と現在の取組についての発表を行いました。30年の軌跡については動画を上映し、取組についてはスライドを使い生徒からの説明を行いました。式典行事終了後には、多くの方から今後のさらなる活躍に期待を寄せられ、生徒職員一同身の締まる想いです。

県立いえしま
自然体験センター

〒672-0100
兵庫県姫路市家島町西島
TEL. 079-327-1508



ネット環境を忘れてみよう～レッツ自然体験～

令和4年10月8日から2泊3日、ネットの使い方について不安がある子ども達を対象にしたネットトラブル対策体験活動事業を青少年本部や神出学園・兵庫県立大学ソーシャルメディア研究会の協力を得ながら実施しました。豊かな自然の中で仲間とともに語り合い・協力し合い、リアルな活動を通して人と人が触れ合うことの素晴らしさを体験することによって、それぞれの課題に向き合い解決するきっかけを作ることが出来ました。また、ソーシャルメディア研究会による「スマホ教室」も組み込み、健全なネットの使い方について考えることが出来ました。



県立兎和野高原野外教育センター

〒667-1336
兵庫県美方郡香美町村岡区宿791-1
TEL. 0796-94-0211



「秋の兎和野・瀬川平山岳歩こう会」の魅力は“山、渓谷、そして、人の暖かさ”

10月16日(日) 大快晴の秋空の中、73名が参加。50代以上が9割を超え、歩こう会三つの魅力を存分に味わっていただきました。

①はちまき展望台からの大展望 ②日本の秘境100選“瀬川渓谷”秋の渓谷美。今年は瀬川滝まで行くコースも復活 ③板仕野地区の方々からの心温まるお接待。金賞受賞米の白ご飯にお漬物。怪しい汁に甘い回転焼き。お米や野菜の当たる大抽選会も盛り上がり、お土産には大根を持って帰っていただきました。



お知らせ掲示板

生徒募集

県立山の学校 生徒募集

- 対象** 中学校を卒業した24歳未満の県内在住の男子
- 募集時期** 追加募集中（定員に達し次第終了）
- 問い合わせ** 山の学校 ☎0790-62-8088

生徒募集

県立神出学園 生徒募集

- 対象** 中学校を卒業した23歳未満の県内在住の男女
- 募集時期** 4・7・10月入学生を募集（年3回）
※詳細はホームページを確認
- 問い合わせ** 神出学園 ☎078-965-1122

参加者募集

キッズスプリングキャンプ

いえしまの豊かな自然の中で、新しく出会った仲間と一緒に、カヌーやカヤック、ハイキングなどで自然をリサーチします。仲間とのふれあいを深めながら、海辺の自然の素晴らしさを体感します。

- 対象** 小学4・5・6年生 30名
- 実施日** 令和5年3月25日(土)～28日(火) 3泊4日
- 参加費** お一人様 20,000円（※船賃別途必要）
- 問い合わせ** いえしま自然体験センター
☎079-327-1508/1509

参加者募集

「雪の夜の森」体験

冬の夜の森で神経を研ぎ澄ます時間をお楽しみください。（スノーシューをはき、雪の夜の森に、ライトなし、無言で入ります）

- 日にち** 3月1日(水)～5日(日) (悪天中止)
- 時間** 19時～20時半
- 参加費** 大人300円、こども150円
- 問い合わせ** 兎和野高原野外教育センター
☎0796-94-0211



青少年団体紹介 Vol. 5

兵庫県青少年団体連絡協議会に加盟する、県内で活動する青少年団体を順次紹介します。



公益財団法人神戸YWCA

日本語教育を通して隣人に優しい暮らしをつくる

〒651-0093 神戸市中央区二宮町1-12-10
TEL:078(231)6201 FAX:078(231)6692
ホームページ: <https://www.kobe.ywca.or.jp/>

神戸YWCAでは、外国にルーツを持つ子どもたちの学びを支援するため、2008年以降、毎年夏に「勉強に役立つ日本語」を開催しています。今年は夜間高校の20代の方も参加してくれました。一方、私たちも学ぶ必要があります。

「やさしい日本語（日本語を母語としない人に簡単な、そして優しい日本語の意味）」講座を実施し、役所や保育園、国際交流協会、PTAなどで活用されています。



▲「やさしい日本語」講座の様子

賛助会員を募集しています

次代を担う青少年を育成するためぜひご協力をお寄せください

賛助会費は税制面での優遇措置の対象になります
～ご寄付いただいた方の名簿をホームページに掲載します～

会費 賛助会員（個人）年額1口 2,000円以上
賛助会員（法人）年額1口 10,000円以上

賛助会員カードを提示すると、県内の美術館等で
入館料・入園料割引等の特典を受けることができます

兵庫県遊技業協同組合様を始め、皆様からご寄付いただきました。

青少年健全育成事業を支援する会、姫路建設産業関連団体協議会、一般社団法人兵庫県空調衛生工業協会、こころ豊かな人づくり500人委員中播磨OB会、三貴株式会社、特定非営利活動法人ヘルスピア夢ひょうご、有限会社兵庫県職員互助サービス、日本チェーンストア協会関西支部、株式会社パナソニックグループ（敬称略）
（令和4年1月～12月末）



▲兵庫県遊技業協同組合 平山龍一理事長様(左)

「ひょうご縁結びプロジェクト」成婚1000組突破!

1対1のお見合い紹介を行う「ひょうご縁結びプロジェクト」の成婚カップルが1000組を突破。お祝いセレモニーを令和4年7月2日、県民会館で開催し、1000組目のご夫妻に上田理事長から記念品と花束が贈られました。ご夫妻から「サポートセンターでは結婚に真剣な方と出会える。諦めずに行動してみて。」とのメッセージ。

ひょうご出会いサポートセンターでは、令和5年4月から新たにAIマッチングシステムを導入し、結婚を希望する独身男女をサポートします。

